



ティー・ロウ・プライス 世界テクノロジー株通信 Vol. 18

ティー・ロウ・プライスグローバル・テクノロジー株式ファンド

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

2024年7-9月期の運用状況と今後の見通し

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ティー・ロウ・プライス 世界テクノロジー株通信では金融市場、経済環境、注目セクター、銘柄、金融市場を動かすトレンド等に対する運用責任者の見方などをご紹介しています。

今回は、2024年7-9月期の当ファンドの運用状況についてご報告いたします。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

当レポートのサマリー

当ファンド
運用責任者
ドミニク・リゾ

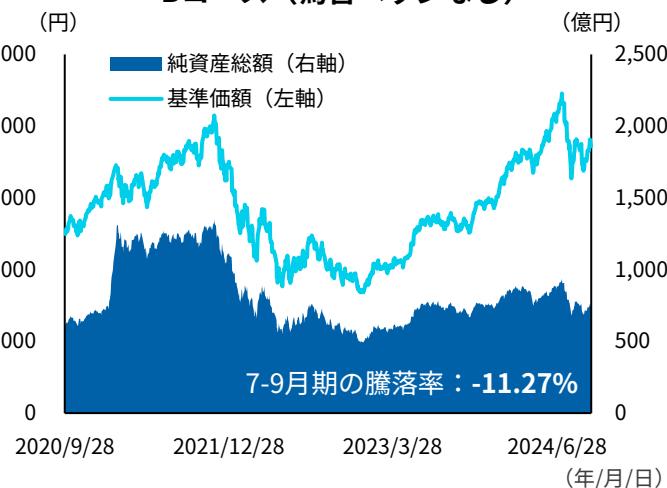
- 2024年7-9月期の世界テクノロジー株式は、一部のメガテック企業の予想を下回る決算や半導体関連銘柄に対する対中国規制強化への懸念などを受けて大幅に下落する場面もあったものの、最終的にはFRB（米連邦準備制度理事会）の利下げなどが好感され、わずかながら上昇。
- 足元では、中長期的な成長が期待されるAI向け半導体関連銘柄への投資は依然として重要であるものの、設備投資や主力半導体企業の成長減速を懸念し一部利益確定。
- 引き続き、経済活動において根幹となる非常に重要な技術（リンチpin・テクノロジー）を提供する成長企業を中心に、AI向け半導体関連銘柄に加えて他の半導体分野やソフトウェア、新興国などにおいて魅力的な投資機会の発掘に努める。

基準価額の推移（2024年9月30日時点）

Aコース（為替ヘッジあり）



Bコース（為替ヘッジなし）



基準価額

純資産総額

9,142円

351億円

2024年9月30日時点

基準価額

純資産総額

14,883円

746億円

2024年9月30日時点

期間：2020年9月28日（設定日）～2024年9月30日

・基準価額は1万口当たり、信託報酬など（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。表示期間において分配金のお支払いはありません。
・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

2024年7-9月期 マーケットの振り返りと当マザーファンドの投資行動

2024年7-9月期の世界テクノロジー株式指数（米ドルベース）は、一部のメガテック企業の決算が市場の高い期待を上回るほど好調ではなかったことや、米大統領選挙にてトランプ氏の優勢が観測されたことで半導体関連の対中国規制強化が懸念されたことなどから、大きく下落する場面もありました。しかし、最終的には、FRBの利下げや中国の景気刺激策などが好感され、わずかながら上昇しました。また、年初来メガテックに集中していた資金は、不動産、公益事業、金融など幅広いセクターへ物色が広がり、情報通信やコミュニケーション・サービスなどこれまで堅調であったテクノロジー関連セクターは出遅れました。当マザーファンドの主な投資行動は以下です。

主な新規組入・追加投資した銘柄

■ ブロードコム（米国）

通信関連の半導体を設計・開発。特定用途向け集積回路（ASIC）とネットワークスイッチなどの製品における技術的な優位性から今後の成長を期待し、追加投資。

■ ラティスセミコンダクターズ（米国）

半導体を設計・開発。回路の書き換えが可能な集積回路などに優位性を有する点や、経営陣を高く評価。想定より長期化した在庫調整による低調な四半期決算を受け株価が下落した時期に、追加投資。

■ コインベース・グローバル（米国）

暗号通貨の取引プラットフォームを運営。ビットコインとイーサリアムに関する取引手数料が主な収益源泉。暗号通貨に対する関心の高まりから恩恵を享受できるとみて、追加投資。

・ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式マザーファンドの情報です。

・上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものではありません。また、当社ファンドにおける将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

主な売却・組入比率引き下げ銘柄

■ エヌビディア（米国）

中長期的に同社の優位性は揺るがないと考えるもの、今後業績の成長率の鈍化が懸念されることから、利益確定のため、一部売却。

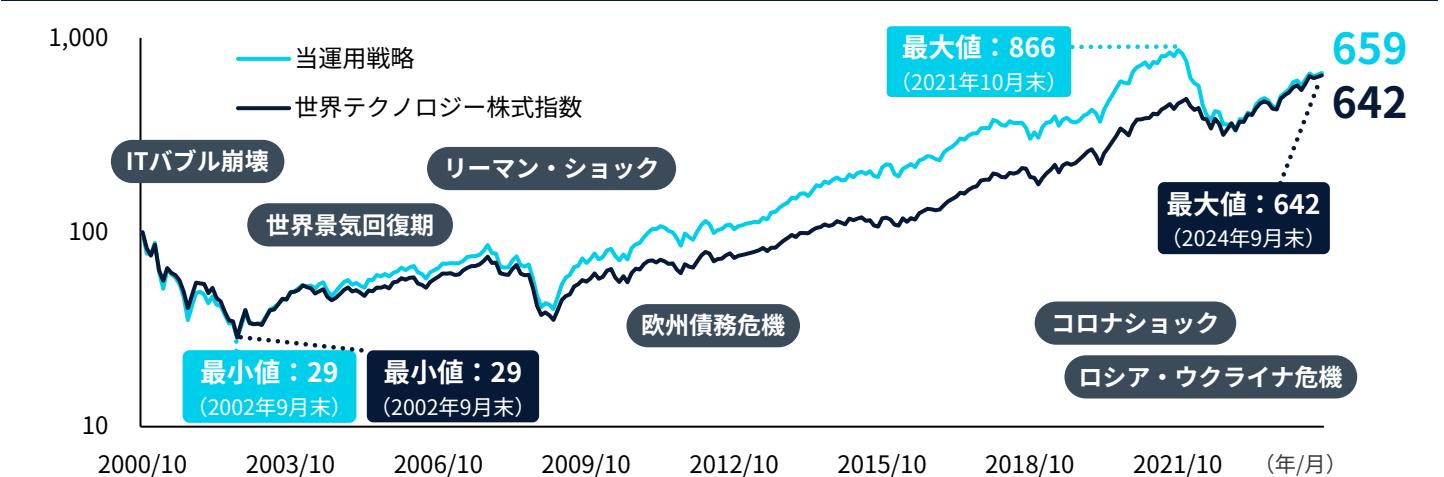
■ アップル（米国）

AI機能を搭載したスマートフォンやアプリケーションが同社の収益モデルに付加価値を与えるとみて、中長期的に評価。ただし、短期的な業績の減速とバリュエーションの上昇を懸念し利益確定のため、一部売却。

■ ラムリサーチ（米国）

半導体装置を製造。半導体メモリ市場の回復が想定より遅れていることや、中国依存度の高さから、米国の対中規制の強化を懸念し、全売却。

ご参考：グローバル・テクノロジー株式運用戦略のパフォーマンス（米ドルベース）



上記は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されているコンポジットであり、当ファンドのものではありません。当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。期間：2000年10月末～2024年9月末 出所：ファクトセット

- ・当運用戦略は米ドルベースの月次リターンを用いて、コンポジットの計測開始日である2000年10月末を100として指数化しています。信託報酬は当ファンドの年1.63%（税抜）に各時点での日本の消費税率を適用し、2000年10月～2014年3月は1.7115%（税込、消費税5%）、2014年4月～2019年9月は1.7604%（税込、消費税8%）、2019年10月以降は1.7930%（税込、消費税10%）を使用しています。
- ・世界テクノロジー株式指数はMSCIオール・カントリー・ワールド情報技術インデックス（税引前配当再投資、米ドルベース）を使用しています。
- ・長期間では各データの値が大きくかい離してくるため、期間を通して値動きの傾向が分かりやすいように対数グラフで表示しています。左軸の目盛りにご注意ください。
- ・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ご参考：2024年6月末と2024年9月末の組入上位20銘柄の比較

2024年6月末（組入銘柄数：56）				2024年9月末（組入銘柄数：54）						
	銘柄名	国・地域	セクター	比率	銘柄名	国・地域	セクター	比率	3年後予想売上高成長率（前年比）	
1	エヌビディア	米国	半導体・半導体製造装置	17.6%	1	エヌビディア	米国	半導体・半導体製造装置	16.4%	19.8%
2	アップル	米国	テクノロジー・ハードウエアおよび機器	12.2%	2	アップル	米国	テクノロジー・ハードウエアおよび機器	12.1%	6.9%
3	マイクロソフト	米国	ソフトウェア・サービス	9.8%	3	マイクロソフト	米国	ソフトウェア・サービス	9.9%	14.6%
4	台湾セミコンダクター	台湾	半導体・半導体製造装置	6.2%	4	台湾セミコンダクター	台湾	半導体・半導体製造装置	6.6%	18.0%
5	ASMLホールディング	オランダ	半導体・半導体製造装置	3.9%	5	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD)	米国	半導体・半導体製造装置	4.2%	21.3%
6	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD)	米国	半導体・半導体製造装置	3.7%	6	ASMLホールディング	オランダ	半導体・半導体製造装置	3.2%	14.1%
7	SAP	ドイツ	ソフトウェア・サービス	2.4%	7	SAP	ドイツ	ソフトウェア・サービス	2.7%	12.2%
8	サムスン電子	韓国	テクノロジー・ハードウエアおよび機器	2.3%	8	ブロードコム	米国	半導体・半導体製造装置	2.2%	11.7%
9	インテグリス	米国	半導体・半導体製造装置	1.6%	9	サービスナウ	米国	ソフトウェア・サービス	1.9%	20.6%
10	ラムリサーチ	米国	半導体・半導体製造装置	1.6%	10	ショッピファイ	カナダ	ソフトウェア・サービス	1.7%	20.7%
11	シノプシス	米国	ソフトウェア・サービス	1.6%	11	アディエン	オランダ	金融サービス	1.7%	24.8%
12	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス流通・小売り	1.5%	12	オートデスク	米国	ソフトウェア・サービス	1.5%	11.7%
13	サービスナウ	米国	ソフトウェア・サービス	1.5%	13	アナログ・デバイセズ	米国	半導体・半導体製造装置	1.5%	10.2%
14	ショッピファイ	カナダ	ソフトウェア・サービス	1.5%	14	ワークデイ	米国	ソフトウェア・サービス	1.4%	14.2%
15	アナログ・デバイセズ	米国	半導体・半導体製造装置	1.5%	15	インテグリス	米国	半導体・半導体製造装置	1.4%	10.7%
16	ASMインターナショナル	オランダ	半導体・半導体製造装置	1.4%	16	シノプシス	米国	ソフトウェア・サービス	1.3%	13.9%
17	ワークデイ	米国	ソフトウェア・サービス	1.3%	17	キーエンス	日本	テクノロジー・ハードウエアおよび機器	1.3%	10.7%
18	BEセミコンダクター・インダストリーズ	オランダ	半導体・半導体製造装置	1.2%	18	ASMインターナショナル	オランダ	半導体・半導体製造装置	1.3%	18.2%
19	SKハイニックス	韓国	半導体・半導体製造装置	1.2%	19	インフィニオンテクノロジーズ	ドイツ	半導体・半導体製造装置	1.2%	11.3%
20	テスラ	米国	自動車・自動車部品	1.2%	20	コーニング	米国	テクノロジー・ハードウエアおよび機器	1.2%	7.8%

緑字は2024年7-9月期に
おける全売却銘柄

2024年6月末時点より比率が上昇した銘柄

2024年6月末時点より比率が下落した銘柄

出所：ファクトセット 3年後予想売上高成長率（前年比）はファクトセットが集計した2024年10月23日時点のアーリスト予想値を使用しています。
 • ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式マザーファンドの情報です。構成比はすべて対純資産総額の比率です。
 • セクターは当該時点の世界産業分類基準（GICS）を使用しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は最終ページをご確認ください。
 • 上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものではありません。また、当社ファンドにおける将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。銘柄名、セクター名は組入当時のものを使用しています。
 • 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

今後の世界株式・AIの見通しについて

世界株式市場は、労働市場の軟化やインフレ圧力の緩和によりFRBが利下げを決定したことや、堅調な企業業績、中国の景気刺激策などが好感されており、運用チームでは前向きな見方を続けています。加えて、米国大統領選挙においてトランプ氏の再選が決定したことで、市場の大きな不安要素の一つが解消され、今後投資家のリスク許容度が改善するとみています。

AI関連銘柄に関しては、**中長期的なAI関連市場の成長見通しおよびAIを活用することによる生産性向上**について

依然強い確信を持っています。また、**AI関連の設備投資**は、ITバブル期のように借入などのレバレッジによるものではなく、潤沢な手元資金によって行われており、持続性の高い成長が期待されます。ただし、設備投資の伸び率がピークに近づきつつあることや、AI向け半導体のリーダー企業であるエヌビディアの売上高成長率が高水準ながらも減速傾向が予想されることなどから、今後はどの銘柄でも良いわけではなく、**徹底したファンダメンタルズ分析**によりアクティブな銘柄選別を行うことが重要です。

当ファンドの運用方針

当ファンドでは引き続き、①経済活動において不可欠かつ非常に重要な技術を提供する企業（=リンチpin・テクノロジー）、②持続的な成長市場でイノベーションを起こす企業（=革新性）、③ファンダメンタルズが改善をしている企業、④妥当なバリュエーションを示す企業の4つの要素を総合的に判断し、魅力的な企業の発掘に努めます。足元の注目分野と銘柄例は以下をご覧ください。



AI向け半導体への投資継続に加え、他の分野における魅力的な投資機会を発掘

AI向け設備投資の拡大に支えられ、GPUへの需要が続くとみて、AI向け半導体・半導体製造装置・半導体メモリ関連銘柄への投資を継続。ただし、今後成長率が高水準ながらも減速傾向が予想されることから、一部利益確定などのポジション調整を行う。同時に、半導体の他の分野において魅力的な投資機会を発掘し、特定の分野における技術的な優位性が高い銘柄（ブロードコム）などに着目。また、主にPCやスマートフォンの更新サイクルの到来によるCPU需要の拡大が期待されていることから、関連銘柄（アドバンスト・マイクロ・デバイセズ）に注目。



AIを活用する銘柄やサイバーセキュリティ関連銘柄などを発掘

AI向けの投資（半導体の開発・製造、大規模言語モデルの構築など）が優先されていることや、コロナ禍にソフトウェア関連投資が大幅に増加した反動から、一部で業績の悪化が見られるため、やや慎重な姿勢を継続。ただし、AIはソフトウェア関連銘柄にとって脅威というよりもむしろ好機になるとみていることや、AIの活用やサイバーセキュリティ向けのソフトウェアに関しては、企業のソフトウェア支出が引き続き堅調に推移するとみて、関連銘柄（SAP、ゼットスケーラー）に注目。



新興国の成長を取り込む銘柄、中国の景気刺激策の恩恵を受ける銘柄などを発掘

新興国において市場シェアとウォレットシェア*の拡大が期待されるeコマース関連銘柄（メルカドリブレ）に着目。また、銀行口座の未保有者が多い地域などにおいて、先進的なソフトウェアのインフラを活用することで、より低い手数料で利用しやすいサービスを提供するフィンテック関連銘柄（ヌー・ホールディングス）、中国の景気刺激策を受け、個人消費拡大への期待から恩恵を受ける銘柄（テンセント・ホールディングス、PDDホールディングス）に注目。

*個々の顧客の消費額に占める自社サービスの割合。

- 上記で記載した個別銘柄は、当マザーファンドにおける2024年9月末時点の組入銘柄であり、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものではありません。また、当社ファンドにおける将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。
- 上記は作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。



No.1

米国機関投資家向け
米国株式アクティブ
運用資産残高^{*1}



約233兆円の
運用資産^{*2}



約930名の運用
プロフェッショナルが協働^{*3}

85年超

1937年、
ボルティモアにて
創業

お客様の成功
こそが、
私たちの成功

アクティブ
運用の雄

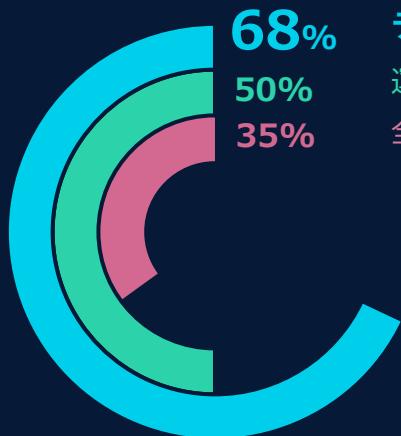
*1 Pensions & Investmentsによる年次調査に基づく、適格退職年金、基金、財団などの米国の非課税機関投資家向けの運用資産残高（外部委託を除く自家運用分、2023年末時点）。ティー・ロウ・プライスの運用資産残高は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクのみが集計対象です。

*2 2024年9月末時点。1米ドル=143.040円で換算。グループ全体の運用資産には、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよび関連投資顧問による運用資産残高を含みます。

*3 2024年9月末時点。

米国株式ファンドにおいて 10年間のパフォーマンスでインデックスファンドを上回った割合

2024年6月時点



ティー・ロウ・プライス^{*4}

運用残高トップ5のアクティブ運用会社平均^{*5}

全アクティブ運用会社平均^{*6}



ティー・ロウ・プライスの米国株式ファンドは、
インデックスファンドを上回るリターンを
長期かつ着実に実現してきました。
この長期的な実績は、厳格なリサーチと
数字にとらわれず隠れた投資機会を
発掘してきた深い洞察によるものです。

出所：モーニングスターのデータをもとにティー・ロウ・プライスが作成

- 10年間の月次ローリング・リターン（2004年7月1日～2024年6月30日）を基に算出。比較対象とするインデックスファンドは、モーニングスター・ダイレクトで「インデックスファンド」に分類され、分析対象のアクティブファンドと同じモーニングスター・カテゴリーに属する米国株式ファンド（米国の投資信託およびETF、以下同様）。全てのアクティブ運用会社は、ティー・ロウ・プライスを除く、アクティブ運用を行う米国株式ファンド。分析は、インデックスファンドが存在するモーニングスター・カテゴリー内の全ての米国株式ファンドを対象に同一カテゴリー・レベルで実施。最長シェアクラスのリターンを使用。ローリング・リターンは、リターン計測期間の起点と終点を1ヵ月ずつずらしながら10年の保有期間のリターンを計算。

*4 24ファンド（延べ2,708期間）

*5 ティー・ロウ・プライスを除く165ファンド（延べ16,103期間）。本分析で対象とした全ファンドにおける2024年6月末時点のアクティブ運用資産残高上位5社が対象。

*6 ティー・ロウ・プライスを除く1,818ファンド（延べ160,777期間）。

モーニングスターについて:著作権はモーニングスターに帰属します。当資料に含まれる情報は、(1) モーニングスターおよび情報提供業者のものであり、(2) 複写や配布を禁じ、(3) 情報の正確性、完全性、迅速性は保証されておりません。モーニングスターと情報提供業者はこの情報の使用により被る損害・損失に対し責任を負いません。

- 上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色

1

ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、世界各国の株式(エマージング・マーケット^{*1}も含みます。)の中で、情報技術の開発、進化、活用により成長性が高いとティー・ロウ・プライスが判断する情報技術関連分野のリーディング・カンパニー^{*2}の株式を中心に投資を行います。

*1 エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。

*2 情報技術関連分野のリーディング・カンパニーとは、情報技術の開発、進化または活用等により、製品、商品、サービス等を提供し、世界をけん引するような企業をいい、今後その可能性があるとティー・ロウ・プライスが判断する企業を含みます。

2

銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ^{*1}」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス^{*2}のア널リストによる独自の企業調査情報を活用します。

*1 ボトム・アップ・アプローチとは、ア널リストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

*2 委託会社およびその関連会社をいいます。

3

Aコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジ(主要国通貨による代替ヘッジを含みます。)を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

Bコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める「特化型運用」を行うファンドに該当します。特化型運用とは、支配的な銘柄^{*1}が存在する、または存在することとなる可能性が高いファンドをいいます。

*支配的な銘柄とは、投資対象候補銘柄の時価総額の合計額に対する一発行体当たりの時価総額の比率が10%を超える場合における当該発行体の発行する銘柄をいいます。

当ファンドは、情報技術関連株式に大きな比重をおいて投資するため、特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該銘柄の発行体に経営・財務破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合または予想される場合等には、大きな損失が発生することがあります。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。当ファンドが有する主なリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

株価変動リスク	当ファンドは、世界の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)、グローバル預託証券(GDR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。また、当ファンドは中小型株に投資することがありますが、時価総額が小さい企業の株式は、大規模企業の株式よりも価格の変動が大きくなる場合があります。当ファンドはエマージング・マーケット(新興国市場)の株式にも投資することがありますが、新興国は先進国と比較して市場が成熟していないため流動性が低く、価格の変動が大きくなる場合があります。
集中投資リスク	当ファンドは、情報技術関連株式に大きな比重をおいて投資するため、ファンドの基準価額は情報技術関連の業種の市場環境等に強い影響を受ける場合があり、情報技術関連株式の下落局面ではファンドの基準価額が大幅に下落することがあります。また、業種をより分散した場合と比較して、基準価額が大きく変動する場合があります。さらに当ファンドは、投資環境によっては特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該銘柄の発行体に経営・財務破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合または予想される場合等には、ファンドの基準価額が大幅に下落することがあります。
為替変動リスク	Aコースは、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、主要国通貨を用いた代替ヘッジを行う場合がありますが、通貨間の値動きが異なるため、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、為替ヘッジを行う際は、通貨間の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があり、ファンドの基準価額に影響します。Bコースは、原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込みメモ

購入時	購入単位	一般コース：1万口以上1口単位または1万円以上1円単位 自動けいぞく投資コース：1万口以上1口単位または1万円以上1円単位 ※購入後のコース変更はできません。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	購入代金	販売会社の定める期日までにお支払ください。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として、午後3時30分までに販売会社が受けた分を当日のお申込み分とします。 ※販売会社によっては上記と異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、1日1件10億円を超える換金はできません。 また、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。
	購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。
	購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。
その他	信託期間	原則として無期限(設定日:2020年9月28日)
	線上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(線上償還)することができます。 ・各ファンドについて受益権口数が50億口を下回ることになった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合 ・信託契約を解約することに正当な理由がある場合
	決算日	毎年2月25日(休業日の場合は翌営業日)
	収益分配	年1回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 ※販売会社によっては、分配金の再投資が可能です。
	信託金の限度額	各ファンドについて5,000億円を上限とします。
	公告	公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。
	運用報告書	毎年2月の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知られている受益者に対して交付します。
課税関係	スイッチング	AコースとBコースの間でスイッチングが可能です。 スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。
		課税上は株式投資信託として取扱われます。 一定の要件を満たした公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。 当ファンドはNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		投資者が信託財産で間接的に負担する費用								
購入時手数料	購入金額(購入申込日の翌営業日の基準価額×購入口数)に以下の手数料率を乗じた額とします。	運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 年1.793%(税抜1.63%) の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>購入代金</th><th>手数料率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1億円未満</td><td>3.30% (税抜3.0%)</td></tr> <tr> <td>1億円以上5億円未満</td><td>1.65% (税抜1.5%)</td></tr> <tr> <td>5億円以上</td><td>0.55% (税抜0.5%)</td></tr> </tbody> </table> <p>※購入代金=購入口数×基準価額+購入時手数料(税込) ※スイッチングによる購入は無手数料とします。</p>	購入代金	手数料率	1億円未満	3.30% (税抜3.0%)	1億円以上5億円未満	1.65% (税抜1.5%)	5億円以上	0.55% (税抜0.5%)	その他の費用・手数料
購入代金	手数料率									
1億円未満	3.30% (税抜3.0%)									
1億円以上5億円未満	1.65% (税抜1.5%)									
5億円以上	0.55% (税抜0.5%)									
信託財産留保額	ありません。		組入有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、信託財産から支払われます。 ※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。							

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託および当資料に関する注意事項

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客様向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、当資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡しますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 「T. Rowe Price」、「INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標または登録商標です。当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

当資料で使用している指標・データについて

- MSCIオール・カントリー・ワールド情報技術インデックス、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス：出所MSCI。MSCIおよびその関連会社、並びに第三者の情報源および提供者（まとめて「MSCI」）は、本稿に記載されるMSCIのデータに関して、明示的または暗黙的に関わらず、いかなる保証や表明は行わず、一切の責任を負いません。MSCIのデータは、他の指標や証券、金融商品の基準としての更なる再配布や使用が禁止されています。本資料は、MSCIによって承認、審査、発行されたものではありません。過去のMSCIのデータおよび分析は、将来のパフォーマンスの分析、見通しまたは予測を示唆または保証するものではありません。いずれのMSCIのデータも、投資判断のための投資アドバイスや推奨を目的とするものではなく、投資アドバイスや推奨として依拠してはなりません。
- 金融データと分析の提供はファクトセット。Copyright 2024 FactSet. すべての権利はファクトセットに帰属します。

世界産業分類基準（GICS）について

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグロウヒル・カンパニーズ傘下のスタンダード＆プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

販売会社・運用会社

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

設定・運用は



商号等：野村證券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号

加入協会：日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／

一般社団法人金融先物取引業協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会



T.Rowe Price

商号等：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会／

一般社団法人投資信託協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会